

第8回金山駅周辺まちづくり構想懇談会 議事要旨

○日 時：平成28年4月26日（火）10時00分～12時00分

○場 所：名古屋市役所西庁舎12階 第10会議室

○参加者：18名（随行者、傍聴者、事務局等除く）

1. 金山駅周辺まちづくり構想（素案）について

発言者	内容
住宅都市局 交通施設管理課長	本構想は、市民会館を含め施設の再配置を伴う広い面的整備を行うことをイメージしたものか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	本構想は、金山駅では一日40万人以上の乗降者がいるにも関わらず駅からのにじみだしが出ていない現状を受け、まち全体でのにぎわいを創出するため、駅周辺の回遊性を向上することを目的としている。 その中で、古沢公園、市民会館、アスナルといった市有地の活用を考えている。 加えて、市民会館の老朽化に伴う建替えや駅前の防災機能としてのオープンスペースの確保等、個別具体の課題も抱える中、これらの課題を総合的に解決することを目標として、複合的な機能の再配置を含めて検討を進めている。
住宅都市局 交通施設管理課長	事業主体は、名古屋市が中心となるのか。民間活用のイメージはあるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	基本的には市有地の開発だが、p.66に記載するスケジュール表の右欄に、関係する主な実施主体として関連する部局を挙げている。 現段階の構想は、事業計画ではないため、具体的な事業主体等に言及するものではないが、想定として、各街区の開発にあたっては可能な限り民間活力を活用し、民間事業者を公募するような展開で進めていければと考えている。
松本委員	本構想は駅周辺の回遊性を高めることを目的としているが、そのために地域一帯の施設の更新、再配置、機能転換を含め全体として検討しているのは良い点である。
交通局 電車施設課長（代理）	J R中央線と名鉄線に挟まれた三角地帯は、周辺の交通アクセスを考慮すると、回遊性を高めるのが非常に難しい地域ではないか。
住宅都市局	指摘のあったエリアは、今回の区域拡大の提案において新たに

まちづくり企画課長	対象区域としたもの。前回までの構想案では大津通から東へ1ブロックまでの地域を対象としていたが、今回の構想案では一街区分拡大し、東へ2ブロックまでを対象区域として提案している。 これは、大津通から一本東側の南北道路では近年飲食店も増えているため、引き続きこの地域のにぎわいを高め、回遊性の向上に繋げてはどうかという意見が市役所の他部署よりあったことを受けたもの。 また、指摘のあった三角地帯は、名鉄旧金山橋駅駅舎のあった場所だが、地下鉄、J R線とともに金山総合駅に統合された後は、若干活気が落ちている。旧金山橋駅跡ということで、名鉄の土地もあり、回遊性を高めていく地域として検討してはどうだろうということで併せて区域の拡大を提案している。
観光文化交流局 観光推進室長（代理）	p.53 のパースに来街者向のサービスとして駅北側と思われる場所に観光案内所が描かれているが、既存の案内所をどうするかについても構想で触れられているのか。
松本座長	現在の観光案内所は場所がわかりにくいという意見が多かったため、このようなイメージ図になっている。
住宅都市局 まちづくり企画課	p.56 の「来街者向けサービスの提供」記載のとおり、既存の観光案内所が来街者からはわかりにくいものになっている状況を受け、サインの充実等により誘導を図ることを方針として掲げている。
緑政土木局 企画経理課主幹 （代理）	構想本文中の「来訪者」と「来街者」の使い訳はあるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課	使い分けはないので、いずれかに統一する。
住宅都市局 都市計画課長（代理）	金山は乗降客をはじめとする来街者が多く、可能性のある地域だと思う。今ある要素の更新や充実を図ることでこの地域がより良くなるといい。個人的な感想として、この地域ではお昼処や居酒屋といった飲食店が多く、豊富な資源としてあるが、少し変わった業種の店も増える方向にもっていけると、広がりがでていいのでは。
松本座長	業種が多様になると、地域としての広がりがでていい。
まちづくり公社 経営企画室長	以前にも意見として申し上げたが、ソフト展開として p.70 の「地域主体のまちづくり」にあるとおり、名古屋市としても地元の方に一定の役割を期待しているものと認識している。 そこで、p.66 のスケジュール表にある主な実施団体として地元

	の協議会やまちづくり団体などと記述することを検討してもらいたい。 基本方針に属する施策として挙げられている事項のうち、回遊性の向上、情報発信、防災等、地元の力なしではできない部分も多いのでは。
松本座長	地元の意向に沿ったまちづくりであることが重要だ。
住宅都市局 まちづくり企画課長	p.66 では基本方針として 4 つのテーマに対し、目標像としてそれぞれ 3 つの施策を挙げている。これに対し、地域や民間活力を巻き込んで進めていくというのは、事業を進めていくにあたっての手法のひとつかと考えている。 したがって p.66 では各施策について記載し、p.67 以降の「構想の実現に向けて」の章ではその施策実現にあたっての手法を記載し、内容を書き分けている状況。 それでご理解いただければいいが、そうでなければ必要な検討を行っていくことになる。
松本委員	地域住民をスケジュール表右欄の主な実施主体等に追加できないか。どこにどこまで追加するかという問題はあるが。
まちづくり公社 経営企画室長	我々としてもハード面はあまり考えていないが、例えば ・にぎわいの継承・発展であれば「金山地域内の回遊性の向上」 ・文化・技術拠点の拡充であれば「まちかどからの文化・芸術の発信」 ・地域防災力の強化であれば「防災意識の向上」 ・交通結節点の強化であれば「情報発信の充実」や「来街者向けサービスの提供」 などについて、地元の商店街、協議会、プラットフォームなどで一定の役割を果たせると期待も込めて考えているので、このあたりを事務局で検討してもらいたい。
住宅都市局 まちづくり企画課長	事務レベルの課題として、我々としては地域住民を主体としたまちづくり組織など一定の組織に期待しているが、現状としてその組織が存在しない中、どのように記述すべきは素朴な疑問。 例えば民間事業者等とするのか地域住民とするのか。地域住民ではあまりにも漠然としているので、ある程度組織だったものをイメージできる表現を検討したい。
松本座長	我々は住民団体や住民組織、NPO 法人といった言葉をよく使うが、適当な言葉を入れてもらえるといい。地元住民が主体というような意識を持てるといい。

前川委員	以前は駐車場が記載されていたと思うが、車の乗り入れはどうなっているのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	p.59 の動線イメージで基本的な車関係の処理については記載している。
前川委員	基本的にインバウンドも想定しているとなると、セントレアからは電車だけでなく、観光バス等も交通手段となると思うので、どうなるのか疑問だ。
住宅都市局 まちづくり企画課長	新しい建物の開発に伴い建物の大きさに対応した駐車場が必要となるので、駐車場については事業レベルでの検討になると解釈し、特に明記していない。
鈴木委員	以前の資料には、古沢公園と金山駅南側の 2 か所の都市計画駐車場が入っていたので、同じものを載せたほうがいい。 街区の中にまでは入らず、移送者の動線の街区の端に車を停めてもらうなど、どこかに文言で入れてもらいたい。
住宅都市局 まちづくり企画課長	承知した。
松本座長	p.59、60 のシンボル軸とにぎわい集積軸との間での、回遊性のイメージが湧きにくい。両軸の間を繋ぐ今より太い軸があるといい。 歩き方のイメージとしてゆったり楽しんで歩くところ、途中でショートカットできるところ、停まって休めるたまり場のようなどころなど様々な空間がある中、どのような空間を通して駅から回遊しつつ市民会館や古沢公園のエリアまで到達し、駅まで戻ってくるのが十分にイメージされていないのでは。 両軸の間に細い横線がいくつもあがるが、これらが具体的にどういうものなのかイメージできないのが残念なところ。
交通局 自動車施設課長	p.57、58 のゾーニングについて、今回拡大された区域だが、これは西側の都市機能集積ゾーンと東側の商業・業務ゾーンの間の南北道路に店舗等が増えているというイメージか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	お見込みのとおり。
交通局 自動車施設課長	複合居住ゾーンは既に高層住宅が建っているということか。それとも今度できる計画があるということか。今までこのエリアに高層住宅があるというイメージがなかったなので、そのあたりを教えてください。

住宅都市局 まちづくり企画課長	現状ではそれほど大きな高層住宅がある訳ではないが、中層の共同住宅がある。 高層住宅については、前回の懇談会で松本委員より発言のあった高齢者の都市型居住を含め新しい居住スタイルの提案を行っていくという趣旨の話を受け、反映させたもの。高い低いといった建物の形態の問題よりも、年代層がミックスした新しい都市的な居住を目指すというような文言を加える方向で検討したいと思う。
松本座長	区域を拡大したエリアに住宅はないのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	ある。
松本座長	そうすると、マンションが建っていく可能性が高いのではないか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	そう思われる。現在でも 15 階、20 階とまではいかないが、10 階建て程度の共同住宅が一定数建っている。 ただし、これは図面の表記上、街区単位で区域を指定していくと現在の図面のような表現にならざる得ないところがあるためだが、意図としては大津通の 1 本東側の南北道路沿いの商業機能の集積により回遊性の一端を担ってもらいたいと考え、区域拡大を提案している。
鈴木委員	現状として居住者もある程度いるという話だったが、構想中に示されているよく行く施設からも分かるように、現状ではほとんど立ち寄る施設もないような状況。その中で、市としては商業・業務ゾーンとして位置づけていきたいという話であれば結構だが、地元の人が賛同しない可能性があるのでは。 例えば居住者が多い地域は一部を複合居住ゾーンとすることで、高齢者の駅近居住のイメージを盛りせることもできる。 ゾーンの色分けは、一気に塗ってしまうのではなく、現状や地元の声に配慮して決めた方がいい。 例えば区の方からみても問題ないということであればいいが、そのあたりの調整も必要だと感じる。
松本座長	赤と青の 2 本軸で、片方は木漏れ日の中をゆったりと歩くような人間の豊かさを表す軸とし、右側は機能を表す軸とし、その周りに回遊性がついてくると、はしご状の軸ができていくのではないか。

	p.57 の表現では単純な構造となっていて、軸の中での体験が単一的なものに見える。思想的に変更があっては困るが、もう 1 本軸を書き入れ、はしご状の軸の中に文化・芸術拠点や歴史施設、オープンスペースがあり、回遊できるイメージにできないか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	回遊性の表現を含め、指摘内容を踏まえわかりやすいような表現を考えていきたい。
松本座長	p.59 の図も区域の拡大に対応させて右側にずらしたほうがいい。
住宅都市局 まちづくり企画課長	承知した。
交通局 企画財務部主幹	p.40 のキャプションについて、「オープンカフェなど、家族連れや子供達が楽しめる仕掛けの展開が想定されます」との記述があるが、他のキャプションでは「機能しています」「展開されています」などと記述されているのに対し、「想定されます」と表現をしているのは、何か使い分けがあつてのことか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	最近のまちづくりの中で語られるオープンカフェのような話は、行政が整備した場所で地域住民主体のまちづくり団体がカフェを開くというようなイメージで語られることが多い。 したがって、行政がカフェをやるのではなく、地域住民の活動の場を提供しているという趣旨での記述だと思われるが、誤解のないよう表現を改める。
松本座長	p.63 のキャプションがないので、入れてもらいたい。
住宅都市局 まちづくり企画課長	これは上の文章でパースの説明をしているので、キャプションは必要ないという判断だったが、何か入れるようにしたい。
名古屋まちづくり公社経営企画室長	P59、60 の「地域通過軸」を「地域連絡軸」等の表現にしてはどうか。
松本座長	通過されるだけでは困るということ。
住宅都市局 まちづくり企画課長	指摘内容を踏まえて検討する。
鈴木委員	シンボル軸とにぎわい集積軸を使っているイメージが湧かない。シンボル軸は文章で定義されているが、構想を見た人がどのようなものかイメージできるように（絵などで）定義したほうがいい。p.63 のパースがそれにあたるものであればいいが。 少なくとも 2 本の中心軸については定義すべきで、可能であれば 2 本の軸の間を行き来するイメージも出せればなお良い。
住宅都市局	軸の定義は、絵で 2 本それぞれの軸の役割がわかるようにする

まちづくり企画課長	ということか。
鈴木委員	そうだ。シンボル軸が何かということを地元の人に説明する際に、その絵を見て簡単にわかってもらえるようにすべき。
住宅都市局 まちづくり企画課長	承知した。
鈴木委員	防災についての記載中、震災に対する現状として名古屋市の現計画が触れられているが、風水害については重要とされつつも現計画に触れられていないので、ハザードマップ等があれば記載すべき。 併せて風水害で駅を利用するとすると、空間利用等について JR や名鉄といった民間事業者とどのように連携しているのか、連携していない場合は今後どのように連携すべきか、連携している場合はより良くするにはどうすべきか記載すべき。
住宅都市局 まちづくり企画課長	風水害については、熱田台地の高いところに位置しているので、それほど大きな被害想定はされていないものと予想されるが、後日確認する。 東海豪雨の際も金山駅や金山南ビルに滞留者が発生したので、そのエリアは水につからなかったということだが、空間利用など人の滞留の仕方に課題があると認識している。今年度は、国の制度であるエリア防災計画に基づき検討していきたいと考えている。
鈴木委員	それは構想に入っているのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	エリア防災計画や都市再生緊急整備地域となった場合の都市再生安全確保計画に取り掛かるのは、タイミングとしては構想の内容が固まった後を予定している。 構想中では今後の課題として挙げていくようにしたい。
東海旅客鉄道株式会社企画開発部担当課長	JR と名鉄線の間の三角地帯は、サラリーマンが行く立ち飲み屋のようなところもある猥雑なエリアだと思う。都市計画的にいきなり綺麗なものを配置するより、現在の特性を活かしたほうがいいのでは。 子育て世帯が夜中に騒がしい飲み屋のある地域に家を持ちたいかは疑問。 例えば、駅に近いエリアでは单身の方や若い方が商業施設の上に住んだり、家族世帯は北に位置する複合居住ゾーンのあたりで学校があり買い物をしやすい場所に住むなど、居住については、生活産業等を踏まえニーズに合わせて配置することが重要。一般の住む人が期待するものと違う計画を作ってもそこに人は貼り

	つかないが、どのような人がそこに住むのか考えながら作るとより現実的な計画になるのでは。
住宅都市局 まちづくり企画課長	居住イメージの話については、市街地のイメージを詰めながらゾーンの表現等を検討していきたい。 また、ホテルや飲食、物販といった業種を踏み込んだ議論があるが、構想レベルで業種まで踏み込んだ限定的な考え方をすると、将来事業を展開する際にかえって足かせとなる場合もあるので、将来事業展開をするための構想というレベルでの取り纏めを考えている。 したがって、個々具体的に細かく対応することはできないと思うが、そのようなイメージを持ちつつ検討していくようにしたい。
名古屋コンベンションビューローコンベンション部長	これまでの懇談会では、この地域に一流ホテルを誘致できるかという話を提起してきた。 p.41 の 4 行目にある宿泊機能に関する記述では、前段の「海外からの利用を見据えた宿泊機能の導入」まではいいが、後段のそれによる「国際化」という記述に違和感がある。 カフェやレストランの入った一流ホテルができることで、来訪者の集客性、滞留時間、回遊性の向上や地域のブランド力の向上にも繋がるので、国際化だけではなく広がりのある表現にできるのではないと思う。 一方、前段の話では個別業種に限定できないとのことだったので、難しい部分もあるかと思うが、表現に配慮してもらいたい。
住宅都市局 まちづくり企画課長	表現として微妙なところがあるが、検討する。
交通局 資産活用課長	アスナル金山は平成 32 年を見据えて大きく手を入れることを想定しているのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	アスナルは定期借地の定期期間が平成 31 年度末に満了となる中、p.66 のスケジュール表でおおよその段取りを提案しているが、北側から古沢公園のある土地に市民会館を移し、市民会館跡地に次の施設を整備し、その次にアスナルの施設整備に入るといいう玉突きのような事業展開をすることで地域のにぎわいを継続する仕組みとしたいと考えている。 こうした中で、アスナルは平成 32 年までの定期借地となっているが、それ以降もしばらく駅前のにぎわいを保つために引き続き営業を依頼する必要がある可能性もあり、今回の構想の中で提案していきたい。
松本座長	期限が到来したからいきなり出て行ってもらおうという訳にも

	いかないで、徐々に進めていくということ。
観光文化交流局 文化振興室長	構想中のパースに屋外ステージが描かれたものが3つ程度あるが、いろいろな方から屋外ステージが欲しいという声があるので、そのような声があるということも書いてもらえると、実現化に近づくのではないかと期待している。
松本座長	市民会館への地下通路はどうなるのか。
住宅都市局 まちづくり企画課長	基本的には地下通路はできる限り活かしていきたいと考えている。構想は地上を歩いてもらいたいという考えのもと作られているが、そのために地下通路を潰すという話でもないと思う。 今後は民間活力として民間事業者を公募していく中、どのような条件を付けていくのかを検討する段階で具体化していくものと考えている。
前川委員	p.7 で少子高齢化について記載されているが、名駅や栄との差別化を図る必要もある中で、ウィークデイの昼間に上手く高齢者を取り込む方策を考える必要がある。 高齢者を取り込む手法として、金山においても回遊性をもたせて何でどうやって楽しんだらいいか指示を与えることが大切だと思う。
松本座長	どこかに記載してもいいのでは。
住宅都市局 まちづくり企画課長	市民会館も習い事の発表の場として使われる等、平日昼間の高齢者の方の利用はあるというイメージだが、まちの楽しみ方のプログラムのようなものを提供できるよう、まちが出来上がりつつある段階でイメージを持てたらいいと思う。 p.71 の構想が実現するとの部分で、高齢者版のようなものを追加できればいいと思う。
松本委員	文化振興室の方がいるので意見を言いたいですが、最近の傾向として公共施設ができると外に塀ができてしまったり、夜は入れなかったりと、利用者以外の方は入れない状況があると思うが、時間外や何もやってない時にも入れたりするなど、今後の公共施設は自由性や日常性、住民の通過性・浸透性を持つものにしてもらえるように考えてもらいたい。そうすることで、いつも人がいるような場所となり、生きたまちづくりに繋がると思う。 以上